

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	熊本大学		
拠点のプログラム名称	エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点		
中核となる専攻等名	エイズ学研究センター		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 満屋 裕明 教授	外	10名

【拠点形成の目的】

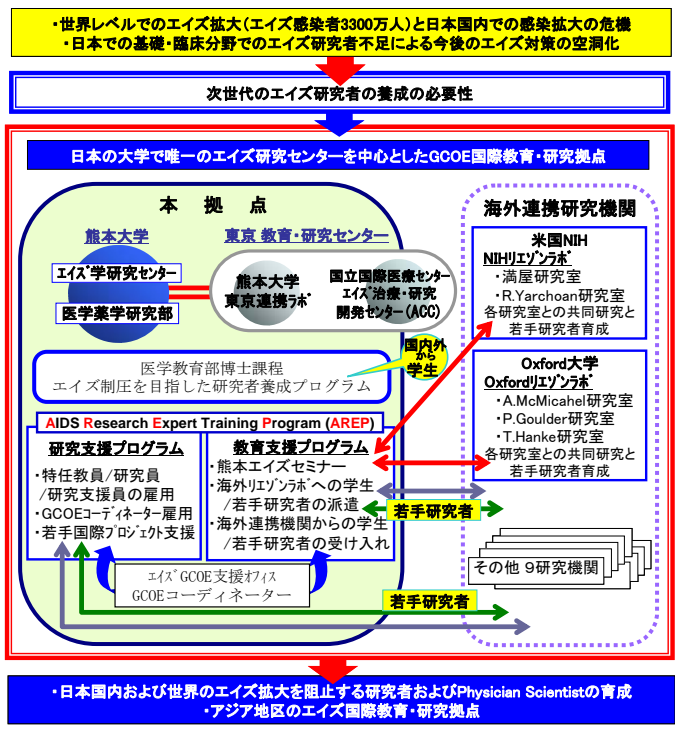
世界のHIV-1感染者は約3300万人、エイズによる死亡者は毎年200万人を超え、**エイズは今日最も人類を脅かす新興感染症**であり、エイズ対策国連特別総会でも波及する社会問題も含め対策が議論されたまさに地球規模の人類最大の課題の一つである。この状態に危機感を強めている欧米ではエイズ制圧を目指して研究への巨大な人的、資金等の投入が行われ**地球規模の国際ネットワーク**が構築されている。わが国では、毎年1,000名以上もの新たなエイズ発症者/HIV感染者が増加しており、先進国の中では唯一感染数が増加している国である。既にその数は13,000人を数え、実態はその数倍に上ると推計され、国の保健衛生上の大きな問題となっている。さらに隣接する中国での実態は目を覆うべきものとなり、100万人を突破する勢いで増加しつつあり、アジア地域での人的交流が活発になっている現状を考えると**今後日本でエイズが急速な拡大**をすることが懸念されている。わが国でもHIV感染症の研究や治療予防法の開発で国際的なエイズ対策に連携していく取り組みがなされているが、**決定的に不足しているのはこの国際的連携、研究開発、治療チームに参画すべき人材の養成**である。日本ではエイズ学研究への研究費投入は欧米と比べて著しく少なく、研究者数は1990年代から殆ど増えていず、今後の日本国内での流行への対応のみならずエイズ治療の最新の技術、エイズに関する遺伝・生体情報、薬剤情報を国際的に高い水準に維持する上で重大な支障をきたすと予想される。このため日本において、グローバルな視点で研究を行う欧米諸国と並ぶレベルでの教育研究拠点を設立し、**国際的に活躍できるエイズの研究者、医療従事者の体系的・組織的な養成が必須**である。

本学は、ヒトT細胞白血病ウイルス (HTLV-1) などのヒトレトロウイルスに関する高い水準の研究で国際的に知られている。本学の研究室から現在の日本のエイズ研究の先端研究者が多く育ち、国内外の大学の教授として、研究所のリーダーとしての役割を果たしている。1997年にわが国の大学では**エイズを研究対象とする唯一の研究・教育組織**であるエイズ学研究センターを設立し、米国NIHと英国Oxford大学の研究室と長期間にわたり共同研究を実施し持続的に確実な成果を上げ、これらの海外の研究室での若手研究者の短期・長期間の育成を行ってきた。そこで2005年に本学が設置した異分野の研究者が学問領域を超えて参画する部局横断的研究組織「大学院先導機構」の一つである「エイズ等新興再興難治性感染症に対する新たな治療法開発をめざした教育研究拠点」での多くの研究成果（**新たなエイズ治療薬darunavirの開発等**）を基盤として、18年度に採択された「**魅力ある大学院教育イニシアチブ「エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム**」における人材育成の成果と実績を踏まえて、さらに**国際的人材育成機能**を一段と高めた**エイズ制圧のための国際教育研究拠点**を構築する。

【拠点形成計画の概要】

国際的人材養成は大学院博士課程における留学生を含めた競争的環境下での組織的・体系的な教育システムである「**エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム**」（英語による授業・実習、複数の教員による研究指導、熊本エイズセミナーや国際学会での英語での発表の義務化など）と、「**AIDS Research Expert Training Program (AREP)**」（自ら研究を企画し実行して行く能力、海外の研究者と

議論し研究内容を磨き上げる能力等の向上を目指した)の2つのプログラムにより、国際的に活躍できる次世代の研究者(エイズ基礎分野の研究者、及びエイズのトランスレーショナル研究分野でのPhysician Scientist)の育成をおこなう。これらの達成のため、熊本大学の**研究室の国際化**(国籍を問わず英語を堪能に話せるエイズ学研究分野の若手特任教員・研究員の採用、海外からの若手研究者・大学院生の研究プロジェクトへの参加)と、既に薬剤開発や免疫病態解析などの分野で共同研究や若手研究者の派遣実績がある米国NIHやOxford大学の研究室などに**国際リエゾンラボ**の設置し、若手研究者や博士課程学生が、国際的な環境で研究が出来るようにする。AREPの研究及び教育支援プログラムでは、適度な競争的環境下で支援を行い、若手研究者が海外の研究機関の研究者とともに自らの研究を遂行する能力に磨きかけられるシステムとする。これらのプログラムを遂行することにより、国際的に活躍できる研究者の育成と国際教育研究拠点化がなされる。



機 関 名	熊本大学
拠点のプログラム名称	エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点
[採択理由]	
<p>本拠点は、人類を脅かすエイズに対する最先端の研究を進めるとともに国際的・競争的環境下で若手研究者の育成を目指すものであり、拠点リーダーをはじめとして優れた研究者・教育者を揃えており、実現性が高く、評価できる。</p> <p>人材育成面においては、これまでの実績もあり、英語教育の強化や海外連携研究機関での数ヶ月間に渡る共同研究の機会があるなど、優れた計画となっており、評価できる。</p> <p>研究活動面においては、特に抗HIV薬の開発で国際的に高く評価されており、ワクチンの開発でも成果が期待できる。今後、プログラム全体について、新しい展開、更なる工夫が望まれる。</p>	